ゴルフ・日本女子学生選手権

小川 2年連続で6位

日本女子学生ゴルフ選手権が8月25日から27日まで、京都府の城陽カントリー倶楽部・西コースで行われた。3日間計54ホールのストロークプレーで競われ、小川陽子（経済4・香川西高）がトップと6打差のトータル225で、昨年に続き6位。荒井舞（経営1・沖学園高）が11位となった。

小川は2日目を終えトップと5打差の好位置につけたが、3日目にスコアを伸ばせなかった。大会を振り返り、「満足していない。2日目までは確実に一打一打を打っていくことを意識して良い結果を残せたが、3日目は冷静さを欠いてしまった」と話し、秋季リーグ戦に向けては「優勝しか考えていません。最後のリーグ戦は大好きな仲間たちと良い終わり方をしたい」と力強く話した。

▲ 日本女子学生でも健闘し、更なる飛躍が期待される荒井（関東女子）

ルーキー荒井が3位

関東女子学生選手権

関東女子学生選手権（8月3～6日、埼玉県・狭山ゴルフクラブ）では、荒井が3位となった。

2日間のストロークプレーを終え、4位で決勝マッチプレーに進んだ荒井は、準決勝で今大会優勝の佐藤絵美（東北福祉大）に敗退。直後のインタビューで「今、自分にできる最高のプレーをしたが、相手がいろいろな面で上手だった」と冷静に分析した。また、黒石沙也佳（文3・柳川高）がベスト8、小川がベスト16入りした。

（笠井　規史・商2＝写真も）

卓　球・全日本学生総合選手権

女子がベスト8

エース・高敗れ苦戦

全日本学生総合卓球選手権（団体の部）が8月9日から12日までの4日間、愛知県体育館で行われ、女子がベスト8進出を果たした。男女とも予選リーグは1ゲームも落ときず、圧倒的な強さで突破。順当に決勝トーナメントへコマを進めた。

女子は1回戦の福岡大、2回戦の中大ともに3―0で快勝。しかし、準々決勝の近大戦でエース・高瑜瑶（商4・秀光中等教育学校）が敗れるなど苦戦を強いられ、1―3で敗退した。

男子は、1回戦で東北福祉大に3―0で勝利、流れに乗りたかったが、2回戦で強豪・中大に1―3で敗れた。

（山口　高弘・商3）

バドミントン・東日本学生選手権

団体・個人ともベスト8

東日本学生バドミントン選手権が8月29日から9月5日まで、北海道立総合体育センターで行われた。

女子シングルスで安藤真里絵主将（経営4・西条農高）がベスト8入り。また、女子団体では準々決勝で日体大と接戦を繰り広げるも2―3で敗戦。昨年の3位から順位を下げ、ベスト8に終わった。9月11日に開幕した関東大学秋季リーグ戦では、惜敗した日体大へのリベンジを誓う。

（大津　智世・経営3）

▼ 2部優勝の要となった小池（左）

相　撲・東日本学生リーグ戦

2部で2年連続優勝

7年ぶり1部復帰

東日本学生相撲リーグ戦が9月4、5の両日、靖国神社相撲場で行われた。専大は7戦全勝で2部リーグ優勝。入れ替え戦も勝利を収め、7年ぶりの1部復帰を果たした。

全勝同士の対戦となった大東大との最終戦は、勝ち数で1―3と劣地に立たされた。しかし、ここから牧園大悟（経済4・樟南高）、窪田敬介主将（商4・向の丘工高）が連勝。続く小池辰彦（経営4・水戸農高）が踏ん張りを見せ、4年次生の底力を発揮し、勝利した。

入れ替え戦では駒大と対戦。序盤2戦を不戦勝、続く3戦も連勝し、圧勝した。

窪田は「次の全日本学生選手権が学生最後の試合。気合を入れて挑戦したい」と語った。

（土屋　杏有美・文2）

ヨット・関東学生個人選手権

個人シングルハンド級

多田が3位入賞

関東学生個人ヨット選手権が8月21、22の両日、神奈川県・江ノ島ヨットハーバー沖で行われた。全長約4・2㍍の一人乗りヨットを操る個人シングルハンド級でヨット部の多田裕帆（ネット情報4・幕張総合高）が3位入賞を果たした。

柔　道・東京学生体重別選手権

6人がベスト16入り

東京学生柔道体重別選手権が9月5日、日本武道館で開催された。6人がベスト16入り し、90kg級の大杉翔主将（経済4・青森北高）、60kg級の田邊永吉（商3・高田高）が代表決定戦を制し、全日本学生体重別選手権（10月9日、同会場）の出場権を得た。

記録コーナー

◇水泳部

▽関東学生選手権水泳競技大会【女子1部400㍍自由形】岩永＝4位【同200㍍バタフライ】高野＝3位

Sports カレンダー

◇卓球部

▽関東学生リーグ戦 9月15～29日（駒沢体育館ほか）

◇陸上競技部

▽東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）予選会 10月16日（立川市国営昭和記念公園）

◇レスリング部

▽全日本大学グレコローマン選手権 10月14、15日（駒沢体育館）

◆関東大学ラグビー・リーグ戦　（2部）日程◆

9月	26日(日)	専　大―國學院大	12:30	拓　大
10月	3日(日)	専　大―山梨学院大	14:30	拓　大
	16日(土)	専　大―立　正　大	14:00	大　沢
	24日(日)	専　大―埼玉工大	14:00	熊　谷

※拓大＝拓殖大学グラウンド、大沢＝大沢グラウンド、熊谷＝熊谷グラウンドの略。
9、10月分のみ掲載。

キャンパス情報

◇企画展示〈変わりゆく大学・学生・町なみ―高度成長期の専修大学と多摩区〉

▽日程＝9月25日～10月17日、10時～18時30分（日曜は16時まで）▽場所＝サテライトキャンパス▽10月9日、14時から記念講演「高度成長期における専修大学の発展」「多摩区の歴史について」を行う。（入場無料）

◇学生部〈奨学金相談会〉

専修大学奨学生、日本学生支援機構奨学生、留学生奨学生などのほか、現在奨学生でない学生の相談も受け付ける。【生田】10月4日～15日（土日除く）【神田】10月7日、12日、いずれも12時20分から13時。各キャンパス学生生活課で。

◇キャリアデザインセンター〈社会人基礎力トレーニング講座〉

企業の元取締役などが講師となり、マーケティングや経営戦略の実際を講義とグループワーク、プレゼンテーションを1セットとして4テーマ行う。10月5日から毎週火曜、4時限目に開催。定員50人。

※以上、詳細はホームページで確認を。

「見えないもの」を「見える形に」　ネットワーク情報学部

インタラクションデザイン基礎演習で職員にインタビュー

ネットワーク情報学部2年次のインタラクションデザイン基礎演習の前期の課題として、専大職員へのインタビューと記事作成の演習が行われた。題して「My ROLE Project」。グループごとにさまざまな部署で働く職員に仕事内容や自らの役割、学生へのメッセージなどを取材。30人分の取材記事を基に、履修者全員が個人課題として編集し、インタビュー集を作成した。

インタラクションデザインとは、情報メディアとユーザーとの「やりとり」を設計するもの。演習の狙いを担当の上平崇仁准教授は「学生は普段、ユーザーとして接している大学のサービスを当たり前のものとしてとらえがちですが、実は見えないところで多くの職員の方々がそれぞれの仕事観や役割をもって支えてくれています。個別ではなく、30人の仕事の視点からシリーズとしてとらえることで、大学という組織の輪郭を浮かび上がらせることが目的でした。個人作業でも、共同作業でもあります。学生たちがよく知っている教務課、就職課のほかに、触れ合うことの少ない部署の方々にも協力してもらいました。学生たちは、普通に受けている授業や大学生活は、多くの人々に支えられていることを初めて知ったと話しています。クオリティーをもう少し高めたかったという反省点はありますが、学生たちの大学を見る目が変わり、親しみを持ったという点も大きな効果です」と話す。

▲ 左から宮澤さん、甲斐さん、松田さん、大山さん。甲斐さんのタイトルは「WATCH WORK お仕事知り隊！」

当初の成果物体裁はウェブサイトを想定していたが、5月末に「ipad」が発売されて電子書籍ビジネスの熱気が高まってきたこともあり、いち早く取り組んでみようと「電子書籍化にチャレンジしたい学生」を募ったところ、「デザインが得意」という甲斐美咲さん、「編集に興味がある」という宮澤遥さんのほか大山香織さん、松田真衣さんが手を挙げた。デジタルコンテンツ制作のスキルは授業で学んでいたことでクリアできたが、グループごとに文字数や写真の点数などが異なる仕上がりだったため、「雑誌」という形にするのには苦労したという。

「インタビューが多く載っている経済誌を参考にした」という大山さんはクールなイメージに仕上げた。「どの年代の人にも読んでもらえるよう、普段の自分らしさをできるだけ除いた」と工夫を話す。甲斐さんは「先に見出しの位置を決めてしまったため、次のページに移すのが難しかったです。期限ギリギリまで必死に取り組んだので発表会のときにみんなから拍手をもらい、達成感を感じました」と振り返る。

「ファッション誌のイメージで作った」という松田さんは、就職課職員のインタビューを担当したことで、「将来や就職について考える機会にもなった」という。「発想が面白いと評価してもらえました。『自分の作品』と言えるものができ、うれしい」と宮澤さん。

「自信になったが、さらにレベルアップしたい」と甲斐さんが話すように、一つのことをやり遂げた経験は次のステージでの彼女たちをさらに輝かせてくれることだろう。

▶ 甲斐さんのページから

▶ 大山さんの表紙

▶ 宮澤さんの表紙

▶ 松田さんの表紙